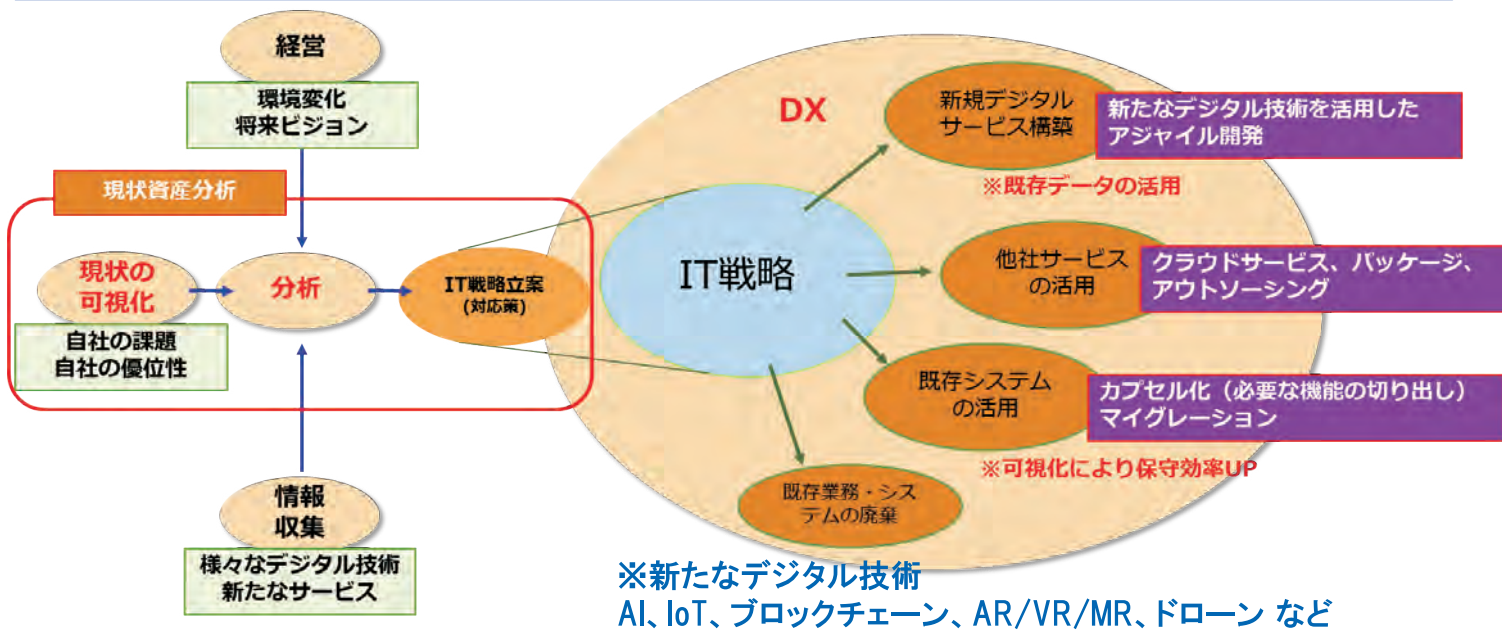


DXを阻害するブラックボックス化を解消

# レガシーシステム可視化・分析シナリオ

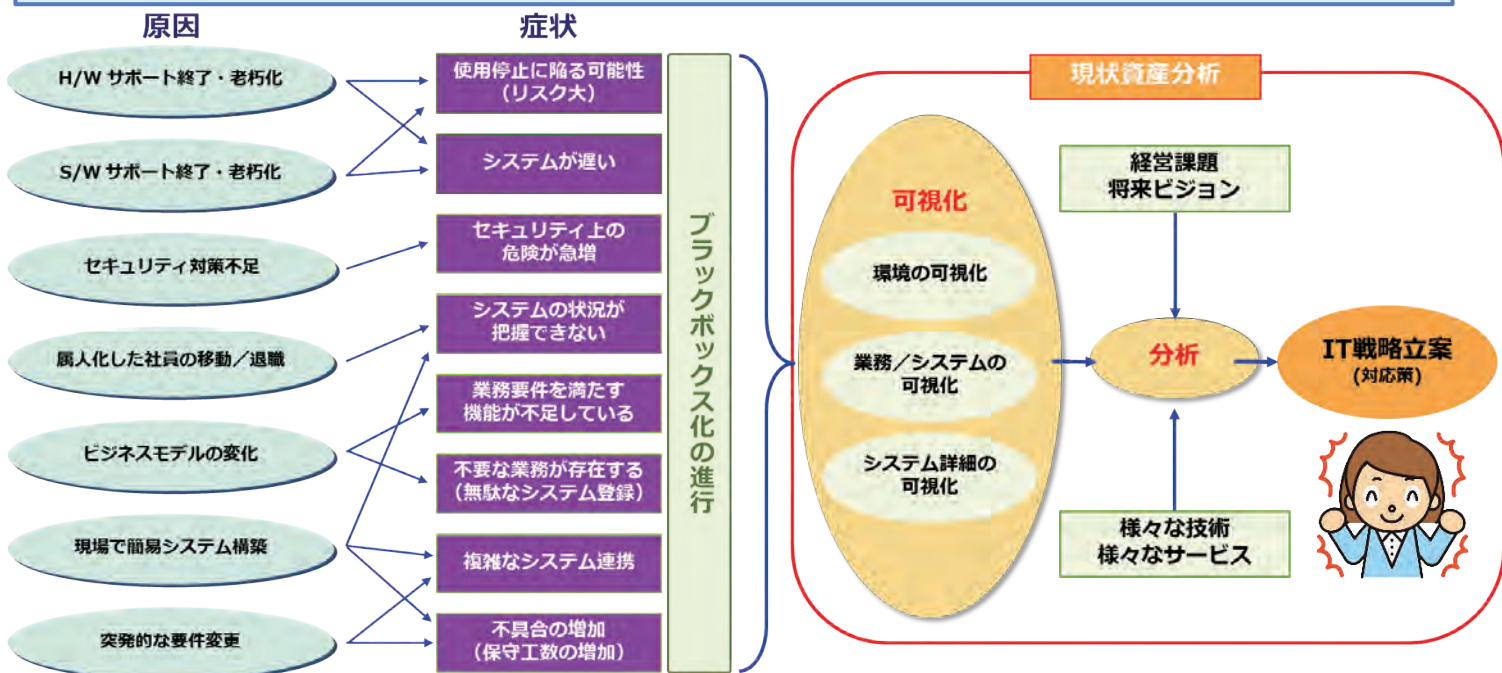
## モダナイゼーション プロバイダ視点で考えるDX推進アプローチ

「DXレポート」で指摘されている既存システムの見直しが不可欠であり、現状の整理・分析／評価を行い刷新の方向性の決定が必要。まず、①現状の可視化を実施、②自社の課題や優位性と経営環境の変化、将来ビジョンとデジタル情報を勘案しDXに向けた検討／診断。③IT戦略を立案し実現へ。



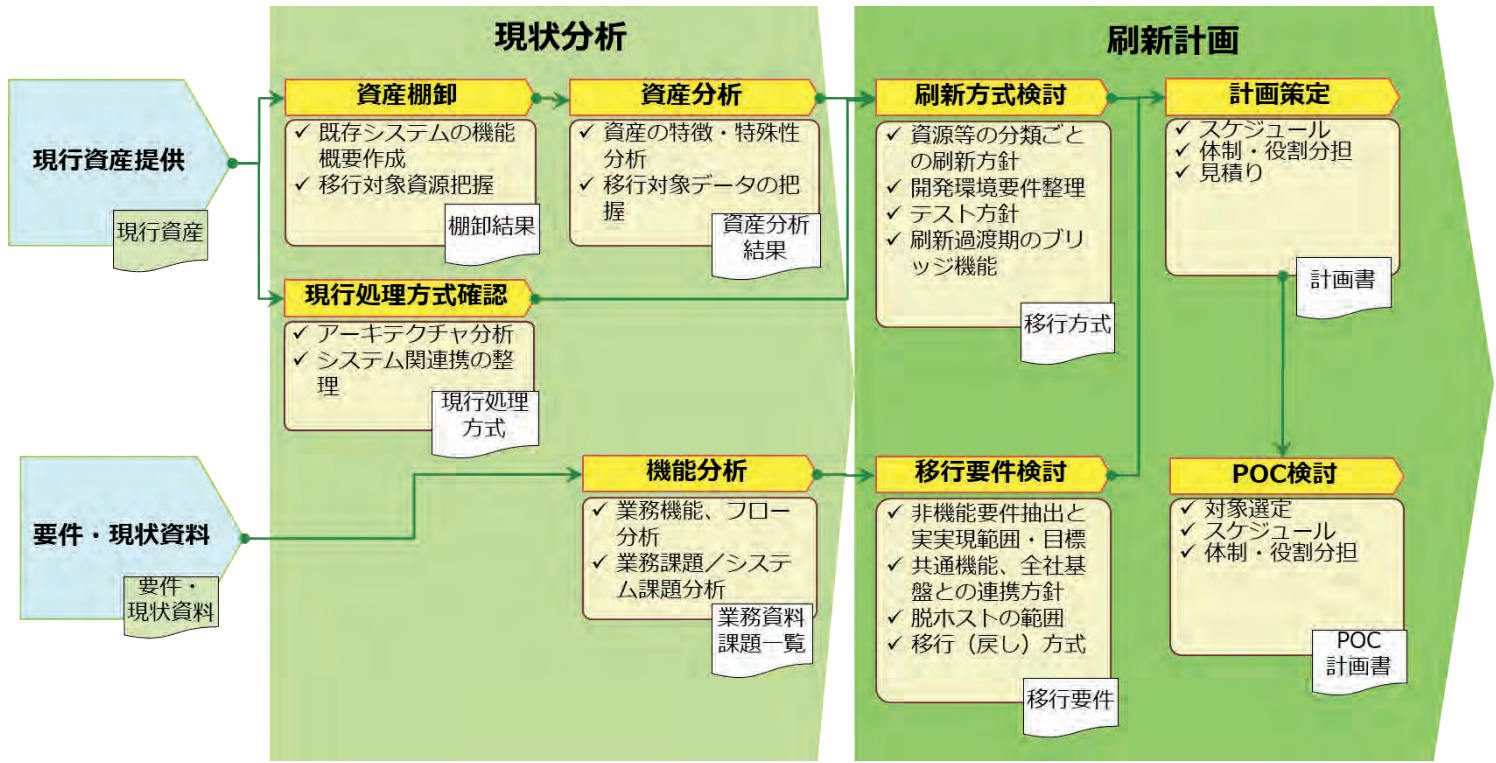
## DXの検討に向け現状資産分析からIT基盤の刷新につなげる

「2025年の崖」克服に向けたレガシーシステム刷新は、現状分析と計画策定が第一歩～ 既存システムの棚卸による見える化と現状課題も加味した資産分析



# レガシーシステムの現状分析・刷新計画策定に向けた具体的プロセス

モダナイゼーションプロバイダとして「DX推進」に向けマイグレーション技術を用いた現状分析(資産棚卸～分析)、刷新計画策定のプロセスを以下に示します。



## DXの推進に向け現状資産の可視化・分析から刷新方針を検討

IT基盤刷新の方向性タイプ別に、機能・システム面から分析し方針を決定

■ : お客様主体 (Customer-centric)    ■ : ベンダー主体 (Vendor-centric)

	スクラッチ開発 (ウォーターフォール)	スクラッチ開発 (アジャイル)	クラウドサービス パッケージ	マイグレーション
移行の流れ	要件定義設計 (Vendor) → テスト (Customer) → 本番移行 (Customer)	要件検討 (Customer) → 設計製造 (Vendor) → 本番移行 (Customer)	Fit & Gap (Vendor) → カスタマイズ (Vendor) → 本番移行 (Customer)	資産棚卸 (Customer) → 交換 (Customer) → 本番移行 (Customer)
移行期間	長期	短期 (最終確定までは長期)	短期	短期
運用面	運用を変えられる (運用定着に時間要)	運用を変えられる (最終的に運用にFit)	システムに運用を合わせる (運用定着に時間要)	現行と同様の運用
システム機能面	要件に従った機能実現 (機能抜けのリスクあり)	開発途中でも要件変更可能 (機能漏れのリスク低い)	基本的には標準機能 軽微なカスタマイズを考慮	現行と同機能 マイグレーション後に機能改善
移行費用	初期投資: 高 ランニング: 中	初期投資: 高 ランニング: 中	初期投資: 中 ランニング: 高	初期投資: 中 ランニング: 低
お客様の負荷	高	高	高	低

[資料請求とお問い合わせ]

株式会社 システムズ 開発事業本部

東京都品川区西五反田7-24-5 西五反田102ビル8F TEL 03-3493-0032 FAX 03-3493-2033  
URL <http://www.migration.jp/> E-mail: [migration@systems-inc.co.jp](mailto:migration@systems-inc.co.jp)

●本紙に掲載された社名、商品名は各社の商標または登録商標です。  
●本紙に掲載されている内容は、2019年4月現在のものです。また、内容は改善のため予告なく変更することがあります。